

和歌山県名匠

の だ のぶ お 野 田 信 男

■経歴及び業績

昭和23年現東牟婁郡那智勝浦町に生まれる。

16歳の時に那智大社の宮大工としてその道に精進し、その後、約25年間にわたって「那智の火祭り」に使用する松明・扇神輿の製作に努めている。

那智滝篋もりの熊野修験が伝承した「那智の火祭り」は日本三大火祭りの一つにも数えられ、神々の熊野那智大社から那智の御滝前の飛瀧神社への年に一度の里帰りを表したもので、12体の熊野の神々を、那智の御滝の姿を表した12体の扇神輿に移し、御本社より御滝へと移動し、御滝の参道で松明がお迎えし、その炎で清める神事である。

古代人の力強い姿を想起させる壮絶かつ幻想的なこの火祭りは、躍動的な力で観る人を圧倒させ、熊野が培ってきた歴史や文化を体感することができる。

氏はこの火祭りで使用する幅1m、長さ6m程の12体の扇神輿と、那智大社社有林の檜を使用した重さ50キロにもなる大松明を、長年の勘と確かな技術で、ほとんど一人で製作している。また、伝統技術を継承すべく後進の指導育成にも尽力しており、熊野の伝統を後世に残していく上で、なくてはならない貴重な存在である。



職 種：松明・扇神輿製作